

機能材料事業

長年培ってきた高度な金属加工技術を駆使し、フレキシブル回路基板等に使われる主力製品の圧延銅箔や、コネクター等に使われるチタン銅、コルソン合金、りん青銅といった高機能銅合金条の供給、貴金属めっき・プレス加工等をグローバルに展開しています。

重点戦略

- 主力製品である圧延銅箔／高機能銅合金条の用途拡大、収益力強化
- 事業拡大に向けた生産体制整備

2020年度の振り返り

新型コロナウイルス感染拡大の中、テレワーク・オンライン教育の普及など生活様式の急速な変化により、スマートフォン・タブレット・PC等電子デバイス分野、基地局・データセンター等通信インフラ分野など、当社製品の主力市場において大きく需要が拡大しました。また、車載市場においても、2020年前半は需要が落ち込んだものの後半にかけて回復しており、販売環境は総じて好調に推移しました。

それに対し、2017年度から建設を進めていた圧延銅箔・銅合金条増産投資を2020年6月にて完了、稼働を本格化させることで、足許の需要拡大に対応し増産・増販を達成しました。今後も拡大する需要に対し、さらなる効率化・生産性改善の実現、グループ各拠点における製造設備の増強等により、生産体制の拡充および事業基盤の強化を進めていきます。

TOPICS

高機能材料への需要に対応する合併会社設立・設備導入

高機能材料への需要拡大に対応するため、2019年8月に(株)日本製鋼所との合併会社「室蘭銅合金(株)」を同社室蘭製作所内に設立、2021年9月に溶解炉・鍛造炉の設備導入を完了しました。本合併事業により、チタン銅・コルソン合金等硬質銅合金の生産能力を増強すると同時に、製鉄溶解技術と銅合金製造技術の融合によって、銅合金素材の生産技術の改善にも寄与するものと考えています。

これからも機動的な能力増強とニーズを捉えた技術開発を推進し、データ社会の実現・発展に欠かせない高機能材料の供給を通じて、国連の提唱するSDGsの達成に貢献していきます。



JX金属(株)
取締役常務執行役員 機能材料事業部長 技術本部審議役
百野 修

2021年度の見通し

当社の高機能材料に対する需要は、電子デバイス市場、通信インフラ市場を中心に、2020年度から引き続き旺盛であり、2021年度に入っても好調な販売を継続しています。足許の需要拡大は、IoT/AI社会の進展の大幅な前倒しと捉えており、米中貿易摩擦の影響等により後ろ倒しとなっていた第5世代移動通信システム(5G)進展の本格化と合わせて、今後もさらに加速していくと想定しています。

また、SDGs、カーボンニュートラル社会の進展の中で、NEV市場、リサイクル・省エネ関連向けなど新たな用途での需要の拡大、求められる材料特性の高機能化・多様化が予想されます。当社としては、市場のニーズの変化を先読みした市場開発・技術開発を推進していくとともに、拡大する需要に対し、さらなる生産体制の強化に努めます。



室蘭銅合金(株)の溶解炉

薄膜材料事業

世界最高水準の非鉄金属製造技術を駆使し、半導体向け用途を含む多種多様なスパッタリングターゲットをはじめ、化合物半導体材料、高純度金属および表面処理事業など、各種高機能デバイス、最先端IT機器、医療機器、電気自動車へと応用できる製品・事業をグローバルに展開しています。

重点戦略

- 需要に応じた機動的な供給体制構築
- 新規製品、新規事業開発力の強化
- IT化推進による製造工程のさらなる効率化

2020年度の振り返り

2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大によってデジタルトランスフォーメーションが加速したことによる市場全体の成長を背景に、テレワークや巣ごもり需要が増大し、半導体セクター関連市場は好調に推移しました。今後もさらなる需要拡大が期待される将来の市場ニーズへ応えていくことを目指し、生産能力増強のための設備投資を実施しており、半導体の微細な配線の形成に用いる銅・銅合金、チタン、タンタルなどのスパッタリングターゲットの製造設備について、2020-2022年度中計での当製品に関するプロセス全般の設備増強計画を前倒して実施することとしました。

TOPICS

半導体用スパッタリングターゲットの生産能力拡大

薄膜材料事業の主要製品である半導体用スパッタリングターゲットは、主に最先端のロジックやメモリーの微細配線材料に用いられており、データ社会の進展により着実に需要が伸び続けています。テレワークなどを背景とした通信インフラやモバイル端末の需要増大により、半導体市場の成長は加速しています。この基調は5Gやデジタルトランスフォーメーションの進展により今後も継続するものと予測しています。

当社は半導体の微細な配線の形成に用いる銅・銅合金、チタン、タンタルなどのスパッタリングターゲットの製造設備について増強を行い、生産能力を2020年度には約30%引き上げ、現在もさらなる増強を進めています。今後も需要拡大を支えるために尽力していきます。



JX金属(株)
取締役常務執行役員 薄膜材料事業部長 技術本部審議役
中村 祐一郎

2021年度の見通し

2021年度も、新型コロナウイルスの蔓延、米国による対中政策強硬策の継続、日韓情勢等の影響による経済環境の不透明さは拭えないものの、ワクチン接種の拡大による経済活動の正常化、各企業でのデジタルトランスフォーメーションの取り組み加速、5G・IoT・ADAS(先進運転支援システム)等の本格普及により、各製品群の需要拡大が期待されます。また、中長期的にも先端材料ニーズのさらなる拡大が期待できることから、その需要増に対応するため、既に決定した設備投資を着実に実行し生産能力を引き上げていくとともに、さまざまな市場の変化に伴う顧客要求に機動的に対応することで、顧客の信頼に添えていきます。



半導体用スパッタリングターゲットの設備、電解槽(当社磯原工場)